

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 4 部門第 1 区分

【発行日】平成26年2月13日 (2014.2.13)

【公表番号】特表2012-510576(P2012-510576A)

【公表日】平成24年5月10日 (2012.5.10)

【年通号数】公開・登録公報2012-018

【出願番号】特願2011-538861(P2011-538861)

【国際特許分類】

E 0 1 B 29/46 (2006.01)

E 0 1 B 29/17 (2006.01)

B 2 3 K 37/04 (2006.01)

【F I】

E 0 1 B 29/46

E 0 1 B 29/17

B 2 3 K 37/04 H

B 2 3 K 37/04 J

【誤訳訂正書】

【提出日】平成25年12月17日 (2013.12.17)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

軌道の 2 つのレール (7) の溶接結合のための溶接ユニット (1) であって、移動用シリンドー (2) によりレール長手方向 (10) でユニットガイド (3) に沿って互いに相対的に運動可能である 2 つのユニット部分 (4) を有しており、該ユニット部分 (4) は、それぞれ、レール腹部 (25) への当て付けのために設けられている接触面 (15) を有する締め付けジョー (6) を備えている形式のものにおいて、

a) 前記各締め付けジョー (6) は、前記接触面 (15) から レール長手方向に対して垂直のレール垂直方向 (13) に離間された滑り面 (16) を有しており、該滑り面は、前記レール (7) の中立軸線 (17) に対して垂直に延びる横断面で見て円弧状に湾曲されており、

b) 前記締め付けジョー (6) の位置決めのために設けられるジョーホルダー (14) は、滑り面 (18) を有しており、該滑り面は、前記締め付けジョー (6) の前記滑り面 (16) に対応して湾曲されており、このような構成により、前記締め付けジョー (6) は、前記滑り面 (16, 18) に沿って前記ジョーホルダー (14) に対して可動となっており、両方の前記ジョーホルダー (14) のうちの 1 つは、前記レール (7) のレール頭部への接触のためのストッパー条片 (19) に結合されていることを特徴とする、レールの溶接結合のための溶接ユニット。

【請求項 2】

前記両方の滑り面 (16, 18) の円弧の中心点は、前記レール (7) の前記中立軸線 (17) 上に配置されている請求項 1 に記載の溶接ユニット。

【請求項 3】

両方の前記締め付けジョー (6) のうちの 1 つだけが、前記締め付け駆動部 (5) により、前記レール対称面 (20) に対して垂直な方向で、前記 ユニット部分 (4) に対して相対的に可動となっている請求項 1 又は 2 記載の溶接ユニット。

【請求項 4】

前記各締め付けジョー（6）は、互いに平行にかつ前記レール長手方向（10）に延びていて前記接触面（15）を画成する各2つの接触縁部（21）を有しており、該両方の接触縁部は、1つの凹部（22）によって互いに隔てられている請求項1から3のいずれか1項に記載の溶接ユニット。

【請求項 5】

前記各接触縁部（21）に画成されている前記接触面（15）は、粉体プラズマ溶接により成形されている請求項4に記載の溶接ユニット。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0013

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0013】

図2及び図3から見て取れるように、締め付け駆動部5と相対して位置するジョーホルダー14は、レール長手方向10に対して平行に延びるストッパー条片19に結合されている。これにより、溶接結合すべきレール7は、共通の1つの整列ラインに整合されるようになっている。互いに対を成して相対する両方の締め付けジョー6のうちの1つだけが、締め付け駆動部5により、レール対称面20に対して垂直な方向で、ユニット部分4に対して可動となっている。

【誤訳訂正 3】

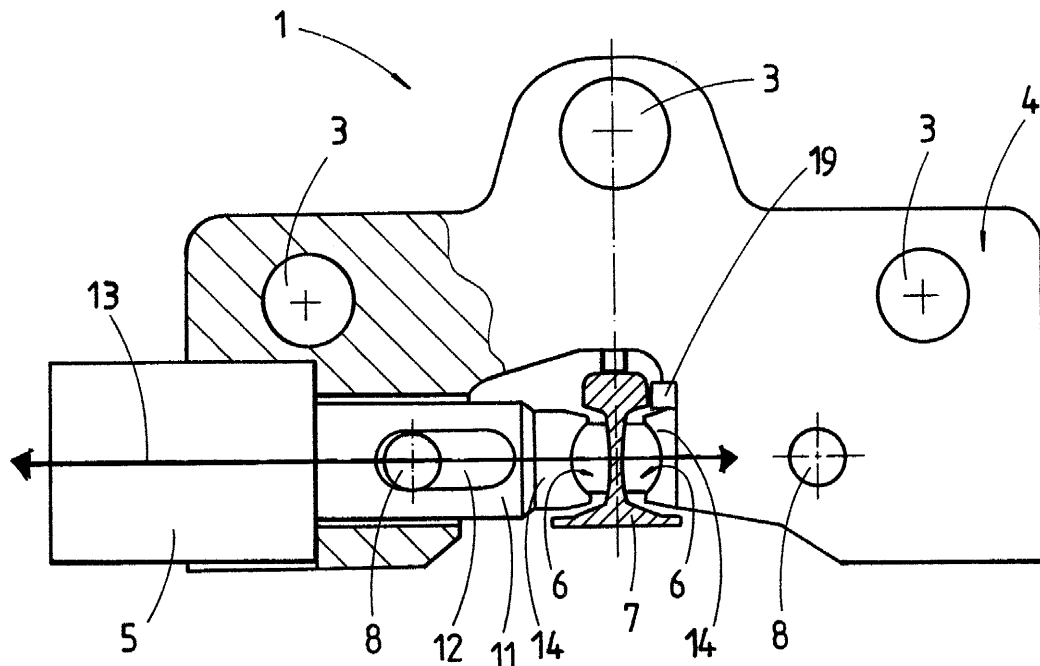
【訂正対象書類名】図面

【訂正対象項目名】図2

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【図2】



【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】図面

【訂正対象項目名】図 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【図 3】

